

主な記事

- 信大繊維学部を生立と近況 1
- 家蚕皮膚に発現する諸形 ...2
- 質の発生遺伝学的研究
- 全学連の行動は何を語るか 4
- 会員近況6

千曲会報

昭和35年3月1日発行

長野県上田市常入
信州大学繊維学部内
編集兼発行人 小山長雄

信州大学繊維学部内
発行所 社団法人 千曲会

昭和31年6月18日第3種郵便物認可 毎月1日発行 定価1部15円 振替口座 長野 6243 東京 43341

信大繊維学部を生立と近況

学部長 林 貞 三

当繊維学部はその前身を蚕糸専門学校と称し、明治40年第20国会で設置が議決され、41年暮にその設立が上田町に指定された。43年4月開校され、養蚕科製糸科を以て構成され、栽桑から染織への一貫した繊維研究教育機関としてはわが国最古のものである。設立の動機は日露の戦後経営が外国貿易に依存する必要に迫られ、純国産蚕糸を採り上げざるを得なかったものによるものと思われる。蚕糸学は農学に属し、当時、東京札幌に農科大学あり、専門学校として盛岡鹿兒島に高農があったが、それについて設立された訳である。高商、高工では東京神戸及び東京大阪仙台だけであった。

斯くして50年を経たがその間国内事情はいろいろ変ってきた。そこでは往古を顧み、将来を眺めて

1. どうして蚕糸専門学校が上田町に設立されたか。
2. 蚕糸業はどのように変わったか、また変わりつつあるか。
3. 繊維学部はどうあるべきか

について述べて見よう
上田市に設立された理

由

話は旧くなるが、当地は国分寺；信濃の国府、真田氏の戦跡等から当時交通の要衝であり要害の地でもあったことを物語る。即ち北越に通じ中仙道に接し富山岐阜も出られたのである。それで早くから文化が開けていたことは漢学や刀剣からも知られる。新しい所ではキリスト教史による教会設立が神戸仙台に次いで居ることなども一証左と思う。政治面では長野県代議士定員の半数を小県郡から出したこともある。

こうした環境において藩主の奨励で植桑が行われ早くから養蚕は発達していた。幕末開港と共にさらに勃興し、明治11年には横浜と共に上田に蚕糸取引所が出来た。種屋は全国にその足跡を印した。製糸工場も東北信一帯に続々設立された

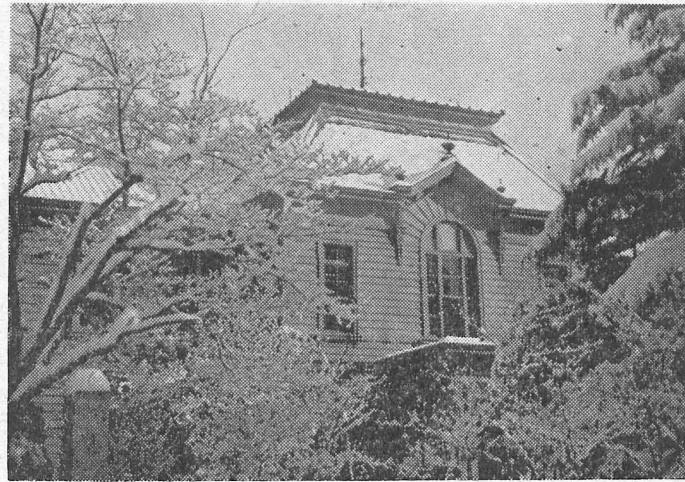
当地方はこのようなヒンターランドであったので、蚕糸専門学校が蚕都上田に設立されたのは極めて自然であったと解する。

蚕糸業の現況

明治から大正にかけて躍進亦躍進の蚕糸業は最盛期に生糸生産量70万俵となり、内8割は輸出され輸出貿易の大宗の名をほしいままにした。昭和4、5年の世界恐慌を境として衰退のきざしがみえ、人造絹糸の発展のため非常に困難な状態に立った。それでも第2次大戦前迄は外貨獲得に大きな役割を演じ、また大戦中は唯一の国産繊維として重要であったこと

はよく知られているところが、大戦中ナイロンが米国に於て完全に生糸と代替してしまつた。即ち戦後は沓下メリヤス方面からしめ出されたのである。国内に於ても十種に余る合成繊維の製出により、戦後の蚕糸業の復興は生産に於て戦前の35%に及ばないのが現状である。

絹は染色がよく婦人の衣類即ち和服に仕立てらるべきものであるが、合繊は強くウォッシング・アンド・ウェアで女中



早春の学園 柴崎高陽

さんが夜十時迄働いて入浴中衣服を洗濯し明朝それを着れるというように便利な為和服にも合繊がどんどん伸びて来ている。幸いに世界的好況に恵まれて絹織物輸出は伸びて来たので、恐らくは今後数年間、今迄の5割増位は増産されるだろう。だがその後が恐しいといった感じをぬぐい去る訳にはゆかない。それは業界組織が不況に対する抵抗力に乏しいことに原因する。今から6000掛養蚕を目標とし、目先の好況に踊ってはならないことを感ずる。

繊維学部の現況と将来

前述のようにして出発した蚕糸専門学校は大正8年紡織科を、昭和15年繊維化学科を加え、繊維専門学校となった。

昭和24年信州大学繊維学部となり今日に至っている。その際単科大学を目指し400万円を投じて運動したことは御承知の通りである。現に養蚕製糸の両科はあるので、学部の半分は創立当時のままであるということになる。

本学部は本年創立50周年を迎えるが、その間科学の進歩はめざましく、養蚕能率は各分野の改善によって10倍になったとみられる。製糸能率に至っては自動繰糸機の発明によって百倍になった。即ち旧の百工場は新の一工場ですり足る。それで卒業生の活動分野は狭められつつあることは認めざるを得ない。然し前述のように増産途上にあり、生糸輸出から絹織物輸出に変わりつつあるので、之に伴う基礎科学の応用を蚕糸業は要請されている。ここに繊維学部改革の必然性がある所故である。

本学部は将来理工科大学に持ってゆくのが最良と思うが、取りあえず今年6月職員学生一致して改革案を作り、大学の評議会を通じ文部省へ之を提出した。その案の骨子は

1. 養蚕学科を繊維農学科にする。
2. 製糸、紡織両科を繊維工学科および繊維機械学科とする。
3. 繊維化学科を充実する。
4. 新たに高分子工学科を増設する。

である。漸くのことで期限内に文部省へ持込んだが、先着が多いので36年度予算に考えるということになり、この案は延されてしまった。

これを実現するには地元は勿論、全国の繊維業界の有力な御後援世論というものが必要である。また2億5000万円の多額の支出を要することでもあるので、特別な御高配を得て、内には改新実行委員会を作り、外には改新时期同盟会をお作り願って、これを推進して行きたいと考えている。

何卒皆様のお有力な御支援と御指導とを御願ひ申し上げます。

(昭和34年11月上田ロータリークラブにて)

(文責編集部)

家蚕皮膚に発現する諸形質の発生遺伝学的研究

— 長島栄一氏学位論文の紹介 —

前号でお知らせしたように母校養蚕学科の長島助教は東京大学農学部から農学博士の学位をうけられた。

昆虫を材料として遺伝学的見地から皮膚移植の研究を行ったのは氏が初めてであり、この特殊技術によって発生遺伝学的立場から遺伝子とその発現の場である細胞質との関連を捕らえ、諸形質の発現機構を究明したものでその業績は非常に高く海外でも評価されている。

本論文は氏が東京大学並びに埼玉県蚕業試験場に在勤中行った研究を中心にして老なる内容を第Ⅳ編に纏めている。次に氏の論文の概要を紹介する。

第Ⅰ編では氏が初めて明らかにした特殊な蠶斑紋に関し斑紋の形態並びに組織学的観察を行うとともに、発育に伴う変化並びに各種突然変異形質と斑紋形成との関係を明らかにし、蠶斑紋は第3齢期まで明らかに認められると述べている。また蠶斑紋色素は Spectrophotometer による吸収曲線に関する研究からメラニン色素であることを証明し、この斑紋はE複対遺伝子褐円(L)、黒縞(P^b)及び油蚕性遺伝子等の作用によって、それぞれ特異的に色調並びに形態の変化をきたすことを明らかにした。さらに蠶斑紋ばかりでなく、幼虫斑紋色素をも赤褐色化する作用がある優性赤蠶(I^a)と劣性赤蠶(ch)とをもちい、その交雑F₂の分離比及び卵内胚子の発育に伴う Tosinase 並びに P₂hydrogenase の作用力の測定、その他の点からI^aとch遺伝子の作用機作が異なるものであることを明らかにした。その他環境諸条件が蠶斑紋の形成に如何なる影響を及ぼすかを温度並びに光線について調査している。

第Ⅱ編においては各種の幼虫斑紋に関する突然変異及びそ



長島栄一助教

れらの結合型を供試し斑紋形成の状態を発生遺伝学的に研究した。第1～3齢期においては蠶斑及び幼虫斑紋の発現があり、第4、5齢期には幼虫斑紋のみの発現が認められるが、異なる斑紋系においても斑紋の模様類似性があり、この類似性は齢期の早いほど顕著である。このような諸現象から斑紋形成には、それぞれの斑紋に対応する遺伝子の作用、胚子発生初期における細胞の分化及

びその後の発育段階における細胞原形質と各種斑紋遺伝子の相互作用によって生ずる複雑な真皮細胞の分化が重要な関係をもつことを明らかにしている。また Spectrophotometer による各齢期の幼虫外皮中に存在する色素の吸収曲線は蠶斑と幼虫斑と異なっているが、この差異についても研究を進め、皮膚構造の変化と蠶斑紋並びに幼虫斑紋遺伝子の発現とは相互に関連があるものと推察した。

次に第Ⅲ編の皮膚移植の実験は氏独特の研究分野でこの論文の中心をなすものであり、幼虫、蛹及び蛾の皮膚に発現する各種突然変異形質の発現機構を詳細に究明したものである。即ち各種系統の幼虫皮膚を相互に移植し、宿主と移植片組織の接合状態、各種幼虫斑紋色素の形成状態、真皮細胞中に存在する数種の生化学物質の行動及び1, 2酵素の作用力等について研究を行ったものである。

皮膚移植における宿主と移植片との接合状態は(1)血球の Syncytium が宿主と移植片との間隙を充し、(2)第2次外皮の伸長及び接合が起り、(3) Syncytium が真皮細胞の機能をもつようになって接合を完了する。

各種幼虫斑紋色素の形成状態では黒縞(P^b)、Sマダラ(Sst)、褐円(L)、ヒノデ(U)、暗色(PM)及び正常蠶(+^PまたはP)等を供試して相互に皮膚移植を行い、遺伝

子の発現の仕組みを調べ、 P^S 遺伝子と L, U, P^M 遺伝子の作用は異なることを示した。即ち宿主を正常蚕とし移植片に P^S 遺伝子の発現する皮膚を用いた場合 P^S 遺伝子の作用によるメラニン色素は形成され難くなるが個体によっては時間の経過にしたがって特有の色素形成が起るのに L, U, P^M 遺伝子の場合にはそれらの遺伝子の作用による色素の形成が認められない。また 1 例を黒縞遺伝子の作用発現についてみると P^S 遺伝子の作用によって一般的には真皮細胞中に形成され難い尿酸塩及び白色物質は宿主 (正常蚕) の真皮細胞から細胞原形質を通して P^S 遺伝子の移植片へと移行する。また P^S を宿主とした場合もこれと同様の現象が起るから皮膚移植における P^S 遺伝子の発現にはその発現の場である細胞原形質の性状が大きな働きをもつことが明確になるわけである。また煤蚕 (So), 黒蟻 (Bm) 等蛹及び蛾の時期に発現する形質についても詳細な検討を加えている。更に黄体色 (lem) od 油蚕 (od) とこれら遺伝子の作用に関連をもつ 2, 3 突然変異形質との結合個体を供試して相互に皮膚移植を行い、Xanthopterin- B 及び尿酸塩等の行動について追究している。lem の皮膚を移植片とした場合宿主が P^S , od あるいは正常蚕のいずれであっても移植片の真皮細胞に明らかに Xanthopterin- B が存在し、移植による影響を受けない。またこの物質は Syncytium から形成される真皮細胞の細胞原形質を通して +lem, od 及び P^S 等の遺伝子の存在する細胞へと移行していくことを認め、皮膚に発現する各種の生化学突然変異形質に関し遺伝子の作用発現の変化とそれに関係する生化学物質の行動との関係が明確にされたのである。

最後の第 IV 編は家蚕における特異な皮膚形質であるコブ性 (K) の発現に関し発生遺伝学的及び組織学的に研究を行ったもので、コブ性は B 複対立遺伝子等の作用による斑紋原基の形成を前提として現われ、コブの隆起はコブ部位真皮細胞の過多分裂によって起り、その増殖は無糸分裂によるとしている。

紙以上が氏の論文の概要であるが、皮膚諸形質の発現がそれぞれの形質に対応する遺伝子の作用、他遺伝子との相互作用並びに発生学的要因等によって規定されることを明確に実証幾多の新知見を拓いたもので、遺伝学的に大きな寄与をなしたものと云えよう。

ここに云うまでもなくかくも立派な業績をあげ得たのは少壮にしてその情熱を学問に注ぎ、誠実真摯なる研究態度と卓越せる才幹と努力なくしては成し得なかつた事柄であり、先生の訓育を受けた人のみならず万人の等しく畏敬し、慶賀するところである。また人となりの片鱗を示す一例として、先生は単なる知識と技術の教授にとどまらず人格の交流を通して志気を振興し、以って学生の信望を一身に集めていることでもよく知られる。まことに徳は孤ならず必ず隣りありとか

以上には支那哲学に憧れたと云われるだけに漢文学や古文にも造詣は深く、時々平家物語などを暗誦される程である。また体は海兵で鍛えたのでスポーツなどやれば何んでもこなせる器用の人でもある。

最後に先生の栄誉をたたえるためにはあまりに言葉が足りませんが皆様と共に先生の今後の御活躍を切にお祈りいたします。

小木曾真佐雄君の思い出

加 藤 沼 二

私は 1 月 6 日、突然小木曾君の奥様より同君が 8 年前の昭和 27 年 4 月に他界して居られた旨の御通知を受けてびっくりした次第であります。余りにも突然であり而もその死が足掛け 8 年も前のことであったことを知らされてその真否を疑がわざるを得なかつた。

然し奥様からのおたよりを拝見すると、昭和 19 年に発病し以来長い間療養生活を続けて居りましたが 27 年 4 月に他界いたしました。もっと早やくお知らせしようと思いつつも何んとかなく言いそびれてしまいましたとあります。同君が病気で名古屋工業試験場を退職して療養して居られたことは知って居りましたが近代医学の進歩を以てすれば治らぬ病気ではなからう。今年の 50 周年記念祭には連れ立って行こうと年賀状を出して置いた所この返事でびっくりしました。

小木曾君とは昭和 9 年 4 月共に上田の学会に学び修己寮の 1 号室で夢多き多感な学生生活を始めた一人です。性温良で物に熱し易く当時としては珍らしい程の登山家であり写真の好きな人でした。我々 24 回生のアルバムがあんなに立派に出来たのも小木曾君の感覚が大いに影響していると思って間違いないと思います。同君は名古屋中学の出身で在学中からキリスト教の信者でした。非常に博愛的な思想の持主で極端に

申しますと己の敵をも愛するという人柄でした。従って当時の級友からは魔がぬけていると評されたこともあるが決してそんな人ではなかつた。寧ろ細かい神経の持主で他人の面倒をよく見ようとした人である。私は同君とは同郷の出身であるために在学中はもとより、卒業後就職して若い奥様を迎えた時も家を訪ねて幸福そうな笑顔を目の当り見て居ります。

療養中は大分読書にふけり沢山の書物を読んで心を慰めていたようである。我々 24 回生でクラス雑誌として芙蓉会報を出して居りますがその No. 6 に小木曾君が随想として一文を載せている。それを読んで見ると、最近私は従容録と云う本を読んだがその中に『眼耳鼻舌一芸一能あり眉毛上にあり、士農工商各一務に帰す』ということがあったが一番役に立たぬ眉毛が一番上位にある……と云ってこの一文に大分心を引かれた様子であった。

化学の得意であった同君としては合成繊維、合成樹脂、合成ゴム、合成石油と次々に完成されて行くので何んとか研究して大器晩成したいと思ったでしょう。にもかかわらず 30 有余才で病に屈し遂に再起出来なかつたことは誠に残念であったろうと同情の念に堪えません。幸にして丈夫な奥様と三人の男の子に恵まれて居られ、奥様からのおたよりに依れば

長男は名大理学部2年二男は高校2年、三男は中学1年になりました。まだ子供達が成人するまでには前途長いことですが主人が亡くなった時には幼かった子供が健康で大きくなって行くのが何よりで主人も草葉の蔭で喜こんで居てくれると思って居りますと書いてある所から見ると三人の子供に総てを托して暮らして居られる様子がよく分かります。

以上誠に拙い筆で旧友小木曾君を偲んで見ましたがお互いに社会や人生の深さが分かり始めた頃になって同級生を失うことは何か力を失ったような淋しい感じがしてなりませ

ん。

奥様から千曲会の皆様、クラスメートの方々に折があったらよろしくお伝え下さいとありましたので会報の一部を借りてお知らせする次第であります。巻24回生の諸君には芙蓉No. 5 No. 6の小木曾君の書いたものをもう一度読んでありし日の同君の面影をしるんでやって下さい。

ちなみに御遺族の住所は左記の通りです。

岐阜県瑞浪市日吉町白倉 小木曾 若子

全学連の行動は何を語るか

製糸学科4年 滝 沢 欣 宏

1. 全学連を憎む

羽田で全学連は国内ばかりでなく国際的に悪名を馳せた。ジャーナリズムを旗手とした世論の非難は、この前の国会デモ事件とはいくら趣を異にして、日米新安保条約のはかばかしくない評判から多少緩和されてはいるが、やはり痛烈であった。確かに彼等の暴挙は非難されて当然であろう。かりに日本の為政者達がたとえば反動体制を築こうとしても、それが憲法に基いたものであるならば、憲法の解釈如何を問わず、暴力行使という力でそれに対抗することは誤りである。民主主義では、暴力は最終的手段においてさえも抹殺されるべきものである。

彼等は叫ぶ。新条約は反動であると。そしてあたかも第三次大戦が今すぐにも起るようなことをいう。それでいて空港ロビーの破壊的行為、すなわち暴力が戦争と同一義、極言すれば小さな戦闘であることを知らないらしい。もし知らないとするは大変なことである。世界の過去の歴史が物語っていることで明かなように、小さな個人的な争を根源として集積された大衆の暴力が悲惨な戦争を引き起している例は多い。つまりそのような暴力をも辞さないとするおろかな大衆の考えこそ戦争に直接結びつく危険性を含んでいる。その意味で徹底的な戦争反対者である彼等の行動と考え方と矛盾がある。彼等の考えている理想社会はあくまでも暴力的行為によって実現できない。理想と実際行動とが排反的關係にあるからだ。

最早赤いカミナリ族ときめつけられた全学連は世論から完全に孤立した。それでも彼等の若い情熱は恐らく、今後も学業をすて就職を棒にふるって学生運動に身を献ずるだろう。しかし今迄のような行動は深く反省され改めるべきものだ。

彼等の理論の当否はともかく、それよりも彼等の如き有能な若者のつきせぬ情熱が、逆効果の爆発に終り、徒らに冷却してしまうことを憂う。そしてその情熱を惜むが故に国会や羽田での全学連の行き過ぎを惜まざるを得ない。

2. 薄情な他の学生

だが、学生のデモ参加や政治活動関与を全面的に否定するのではない。文教政策が行政の一分野に属している以上、学問を政治から完全に独立させることは不可能である。もし学生は勉学だけするものであるならば、学生はいかなる悪どい

政治の野心に利用されたかも知らないでいることになる。日本の悲しい過去がそれを証明している。だから少くとも正しい政治の在り方の認識を養う為に、学生が政治に批判を向けることは許さるべきである。

ところが全学連のような飛び抜けた学生を除いた他の多くの学生の実態をみるに、果して政治に関心があるのか疑問のくらくらである。よりよい就職口を得るがために点取り虫になってもよいだろうし、余暇に遊ぶことに夢中になってもよいだろう。だが大学の存在価値はこんなことだけに在るのではないことを忘れてはならない。社会人として有能な人材を育成するためにこそあるのだ。そのために政治に対しても無関心をよそおったり、背を向けてはいけぬ。出来れば全学生がもっと政治への理解をもつことが必要である。

若い世代の個人主義的風潮、すなわち直接的利害関係に徹した余りにも合理的な、短見の考えで、全学連の果敢な悲しい抵抗を他人事のように思っていたり、世論と同じ冷たい態度で彼等をみただけでよいだろうか。それでは余りにも全学連がかわいそうだ。他の学生は薄情すぎる。全学連によって代表される学生運動の暴走にブレーキをかけるのが、同じわれわれ他の学生の友情ではないか。そうすることこそ学生運動は中庸を保つことが出来る。そして更に全学生の政治的関心が結集されるならば、政治をより正しい形に導くことに貢献できる。

3. 教育を忘れた教師

そのためには学生自身の自己反省ばかりでなく、指導の立場の先生も深い反省を己れに向ける必要があろう。全学連の軽率な行動の根本理念が大学という温床から芽生えた事実は当然教師にも責任の一端があることを示す。東大や九大での全学連幹部逮捕事件に先生方は最後まで説得の努力を惜まな

会費を収めて下さい

本会通常会計は年度末を控え事業資金に難儀しております事情御賢察の上是非会費を納入して下さい。なるべく支会を経て納入いただきたいが連絡困難の場合は振替(長野6243又は東京43341)又は現金を本会へ直送して下さい。

かったであろうが、亦見解らしきものの発表もしたようだがそれだけで教師としての義務や責任を果たすと満足していたら大間違いである。そんな緊急事態に陥ってからの処置では、説得も何も薄っぺらな内容のないただ官僚的に事態をまるく治めようとする手段となってしまうに過ぎない。一般にこれではどんなによく筋道の通った説得でも学生を納得させることは困難だ。事なかれ主義、日和見主義といわれても仕方がないであろう。充分納得させようとするならば常日頃から物事に対しての方向付けを与えてやろうとする誠意が初めて始めてなされる。

ところがごく少数を除いた多くの教師は方向付けを与えることが出来ないようである。戦争経験という大きな思想ダンピングを経験している指導者層と戦後のわれわれ青年層との間の物の考え方についての断層障害がそれを困難にしていることは確かだが、これでよいだろうか。単なる知識の切り売りで、規格品の商品価値ある学生を育成し、見境もなく社会の機構にあてはめるだけが教師の果す機能であるならば、その存在価値は疑いたくなる。そこに政治への狂信的學生と完全不感症學生との両極端が生れる。方向付けが出来ないということは現代學生の生態に目をつぶっているか、或は信念や人生観のしっかりしたものをもっていないことによる出来ない迄も熱意と誠意と愛情とを以て迷える現代學生の中に飛込んで行くのが真の教師の姿ではないだろうか。教師は知識の切売りだけけが商売でないし、地位名誉のためにあるものでもない。正しい教育の在り方を忘れては困る。こう感じさせた大学の運営組織にも欠陥はなきや。現代の貧困教育環境も學生への正しい啓蒙と方向付けがあつてこそ充実刷新されるだろう。

羽田事件の學生処分、大臣勧告による当局や先生の採る態度も問題で、もしお茶を濁すような態度で逃げられるならば、教育は完全に地に墜ちたと云わなければならぬ。若い何十人かの運命が単なる一方的勧告で左右されてよい筈がない。新安保の阻止方法に誤りがあつても、また将来全學連の行動の必然性が立証されないと限らないからである。学校当局や先生は彼等の行き過ぎた行動のもつ意味を理解してやり論証付けしてやる位の、學生を弁護する立場での、温い親心が必要である。學問の政治からの独立という美名のもとに処分を事務的に行おうとするなら、そのような政治形態を確立した後で行うべきだ。手はじめに教育を行政の下に置かずに立法、行政、司法とならべて四権分立でも考えて、すつきりした姿にしてみたらどうだろう。全學連の行き過ぎは彼等だけの責任において処理されてよいものでないのだ。

4. 世論は狂っている

マス・コミの発達によって現代の世論はジャーナリズムに支配されているといつても過言ではあるまい。新聞や雑誌の

もつ性格から、ともすれば物事が事後結果論的に煽動的に走る恐れがある。全學連の行動もその点から其のもつ内容意義をうすくされてしまったきらいがある。暴走とどまるを知らない全學連、恐るべき學生連という行動の善悪と解説とだけの宣伝臭い記事によって、世論は形成されるならば、それから生れる社会常識は完全に狂ったものになってしまう恐れがある。世論はあくまで真実を見極めた上になければならない。そして物事の判断を正邪の両端できめつけてはならない。例えば全學連という言葉だけを聞いてそれが狂信的のろつき學生の集りだとするのであつてはならない。行動の是非を別にして、彼等の考え方を誰が罪惡と判定できよう。物事を賛否両端で押切ることは暴力以上の暴力を作り出さないと限らない。中間階級論が心あるインテリ層にもてはやされて来たのもこのような世論の危険性を知った現われであろうこの中間階級論を支持し、ただ思いと極めつける前に全學連の行動がもつ内容と意義を理解する必要がある。さらには彼等の行き方にも方向付けを与えてやるのが大切である。ジャグザグデモとバリケードだけでなければならぬということとは明らかに否定できるからには、彼等の時間と経済の余裕はもっと多くの機会をとらえ、あらゆるPR機関を動かすという正当手段を可能とした筈だ。新聞ラジオなどの世論を先導する役目をもつものが、今迄全學連の行動にそのような具体的行動を教えたことがあつたらうか。そんなジャーナリズムに世論は踊らされてはならない。みづからのジレンマに陥入り、うわづった表現にまどわされてはならない。

5. 中間階級論を支持する

世論にたたかれ、他の學生から冷くつき放され、学校当局や先生からまます扱ひされようとしている全學連はもう弁解の余地さえ残されていないのか。中間階級論的にすくうことは出来ないか。あの強い抵抗は何に根ざしているかを考えよう。現実生活からの逃避とか単なる犠牲的精神とかのなまぬるいものではあるまい。現在の政治への不信と正しい政治への捨石たらんとする気魄とがそうさせたとか思えない。何が彼等の気魄をゆすぶったか。いくつかあげて来たことから、あの信念は身近な生活に立脚していない非現実的のらいがあつても、一概に彼等の存在価値は否定出来ないだろう。彼等の存在があつてこそ正しい政治があつたのだという逆説がなり立たないとも限らないからだ。彼等の残した功罪は、社会混乱や政治妨害あるいは學生運動の反省ばかりでなく、大衆の政治的関心を高めたことに意義がある。世論の風から避けようとした政府のやり方を世論の前に引きずり出したことに於て。彼等の理論が極左的で、背後にあやつるものが居たとしても、その果した役目は有意であつたと云えるだろう。

権力や野心を恐れず、理想社会を夢み、身を挺して阻止を試みた全學連、武器をもたない彼等に武装警官を出動させたことにより無理じいにあの暴挙を働かしたのではないかとも思う時、彼等ともかく可憐な存在なのだ。いたづらに見殺しにしてはならない。(1960年2月5日)

島津の科学機械
松下の計測器

有限 川上科学キカイ店
会社

川上 保人 (学化1回卒)

上田市末広町5293番
電話(上田) 2321番

信州 武田味噌

長野県上田市柳町3.595番地

武田味噌醤油醸造株式会社

武田 兵助 (織機1回卒)

電話(上田) 2.280番

SAISON

やきとり屋

—一杯飲み屋に寄せられた物語—

(その1)

「おかみさん、銚子1本。臍物半分にして」寒明けとはいえ、まだ底冷えのする夜道を歩いて頬を強ばらせた。こんなところへ顔出しするのが珍しいようなサラリーマン風の青年が入ってきて、誰もいない飲み台の前に腰を下すなり、はにかんだ声でおかみに注文した。

彼が戸を開けて入ってくるから腰を下すまで彼を見つめていたおかみは、奴さんこんなところは初めてだなと思いつつも、奥へ用意しに行った。

2坪あるかないかの部屋の、奥の調理場や居間へ通ずる一隅に、此の部屋の3分の1程の仕切りを設け、その仕切りになるところに、1尺巾の腰を下して、脇をついて盃を傾けるに丁度手頃な台がある。その台に沿って頑丈な丸い腰掛が5つ6つおいてあり、更に土間の方にも混み合った場合の用意にといつては一寸小さ過ぎる、2人で指し向いで飲むには手頃な小卓子が置かれ、北側の柱に懸けられた一挿差しには今朝差し入れたのか色つやのよい寒菊が差してあった。

先刻入って来た青年、年の頃は二十五六、であろうか、遊び人と違って、割に老けては見えるが未だ生々しさが残っている。まあ普通の顔だちであり、瘦せぎすの体には、その心までも弱々しいところが見える程である。彼は独り飲み台の前に残された恰好になり、無寥に耐えられないのか始終首を動かしている。飾り気のない部屋の、唯一の飾りものである寒菊の挿さった、牛の角の一輪挿しにもう何度も顔を向けていた。

「お待ち遠さま」

さっきのおかみの声より若やいだ声に後の小机の上に置いてあった映画雑誌の表紙の絵に眼を落していた彼は、「おや？」と思って向き直った。

彼と向き合って、確にそうだったと思われる主が盃へ徳利を傾けていた。

「さあお上んなさい」

「やあどうも」

彼は彼女に一瞥を与えて、なみなみと注がれた酒を一気に飲み乾した。そして美味かったとばかりに次の要求をした。

「どう？ うちのお酒おいしいでしょう？」媚を含んだ彼女の瞳がそうさやいていた。「美味しい酒だね。別嬪さんのお酌で格別だね」

「そう、どうもありがと」

彼女の勢力にひるんでしまって、彼女の顔から焦点を外して彼は饞舌った。他に客のないということが気楽に話の出来るささいとなった。

「あんたこのひとかい？」

「どうして？」

「ただ聞いてみただけさ」。おかみさんとはあまり似てないようだけど……」

「お生憎さま、れっきとしたこの娘です」

「そりゃそりゃ。どうもお見それ致しまして。じゃっさっきのひとお母さんかい？」

「いいえ。手伝いの方なの」

「なんだそうか。どうりで似てない筈だよ」

それにしても彼はいぶかるのだった。「毎晩こうして顔出しているのかい？」「いいえ。あたしの好きなひとが来たときだけよ」

「そうすると僕も君の好きな人の部類かな」

「まあね」

「なんだ、たったそれっきりか。もつと色よい返事を当にしてたんだがな」

「あたし、そんなこと言えないわ。いくら客商売をしているからって……」

「純情なんだなあ」

「そうよ。あたし、そんな変な酒場の女給なんかと違うんですもの」

「どうも失礼、お見それ致しまして」

あまりこういうところへ出入りしたことのない彼女だったので、所謂「女給」と呼ばれている女の実態は知らなかった。彼女がいくらこの家の娘であるにしても、それはたかが知れていると思って揶揄ったのが、意外に強い抵抗に遇って、こりゃ見直さねばならないと思った。「君の名は？」なんて聞いたら叱られるかな」

「あたし？ ミヤコっていうの」

と言いつつ、彼女は台の上にこぼれていた酒を指の先につけつけ、乾いたところへ「美夜子」と書いて、すぐ台布巾で拭いて消してしまった。

(水沢淵)

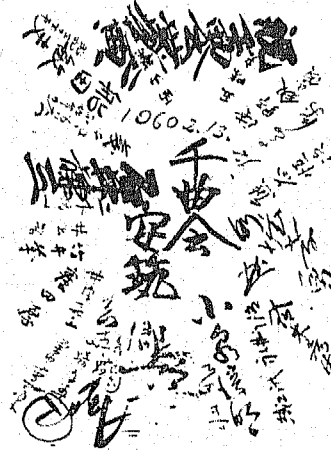
会 員 近 況

安筑支会だより

立春とはいえまだまだ肌寒さを感じる2月13日「折角の上曜日を……」とか何とか、やはりそこは気心の知れた連中の事、文句を言い乍らも浅間温泉は地木屋のアルプス一望(?)の部屋へと集る。

挨拶もそこそこ「何れともあれ先は一浴……」これだけは当支会の自慢の土地柄、ちょっとした遊湯気分にはひたるという処。

定刻3時、少々集合状態が悪い。ならば時間延長ときめこむ。それでも4時、本会より小泉理事到着の頃には大凡の顔も揃う。毎年の事乍ら若手の集り方が少ないし出席者も25名とはいささかさびし



い。しかし4人程の新顔の見えた事は頼もしい。

井沢支会長の挨拶で開会となり、報告事項のうちスミーズに議事進行したものの事業計画、議案に入ると、がぜん議論沸騰、なかなかすさまじい。特に50周年記念事業協力については、水谷長老(系3)の手きびしい御意見を始め実行論、方法論、誠に頼しい限り。小泉理事の御話で一応の結着をみる。

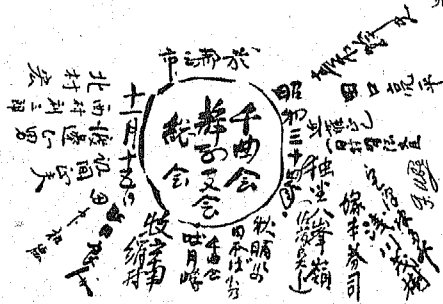
最後に学内の動向について小泉理事より御話があり、加藤会員より支会として「今後の学制改革運動に協力するよう」特別提案があり、全員一致で賛同し会議を終了、直ちに懇親会に入る。

何分にも会費の関係で御膳も極めて粗末、きれい処も居ない、それにしてもアルコールだけは切らすなとつきからつぎと運び込まれる。自己紹介も終りに近づくと頃は自分の席の暖る暇もない程の宴盛となる。こうなるとやはりきれい処を是非にと呼び込むあたり、安筑猛者の面目躍如、飲む程、談る程にさしもの大広間

も手狭になり恒例の寄せ書もする場所もない程の騒ぎ、よき頃合にて小泉理事の発声で安筑支会の万才を声高々と叫ぶ。その後は割合近郷の会員が多いとて、徹夜してでも飲み明かそうという意気込みそれでも「幹事…酒…」「酒はどうした」の声の飛び出す頃には1人2人と又の会う日を誓いつつ、席を立てて行った。本日の総会も総決着にて幹事もほっと一息。春の夜空のキラキラ星を仰ぎながら御帰宅となった次第である。(東記)

静岡支会より

静岡支会総会が11月15日静岡市伝馬町竜宮別館において開催され本会から山口理事が出席された。そのときの元気に満



ちた会員の寄せ書が安倍幹事からよせられた。

胸ふくらませてブラジルへ

碓氷 茂(紡3)

2月4日午後4時、大阪商船のぶらじる丸は800人の南米移住者をのせて、1万トンの巨体を海洋へ向って出港した。このぶらじる丸はブラジル国サンパウロ州のバストス市にあるブラ拓製糸工場へ、製糸技術者として赴任する新婚の丸山栄君(糸学3)夫妻が乗って行った元気で、胸ふくらませて故国日本にサヨナラして。この新夫婦の媒酌人は小生である。新婦は尚子さんといひ染谷女子高卒、上田市上半過の小生の小泉蚕業学校の同級生石井信治君の次女。なおこの船には尚さんの姉のいく子さんも乗って行ったが、いく子さんはブラジル国サンパウロ州に農場を営んでいる。これも小生の小泉蚕業学校時代の同級生篠原右馬次君の長男に嫁ぐための渡航である。この媒酌人も小生である。

母校だより

- 2月15日(月)職員学生の生活の安定と向上に資する目的の信州大学繊維学部消費生活協同組合の創立総会が開催された。
- 2月18日(木)学生後援会理事会が開催され、総会提出議事について審議された。その結果学部50周年記念事業に協賛し学生一名につき1,000円醸出することの議案も提出することになった

本会日誌

- 1月29日更殖支会久保田正樹氏来館。
- 2月2日上小支会長和田晋氏来館。
- 2月8日旧賛助員現神戸大学教授奥正見氏来館。上小支会矢島隆之助氏(昭栄製糸上田工場次長)来館。
- 2月9日学内理事会開催記念事業協賛会発起人会の経過報告を中心に今後の推進について協議。
- 2月13日安筑支会総会に小泉理事出席。
- 2月14日愛知支会東三河地区総会に坂口理事出席。
- 2月15日会報編集委員会開催。

特別活動資金受領報告

- 金2,000円 丸山 勲(糸20)
- 金 800円 柄沢俊信(化2)
- 金 400円 堀内 鼎(学化4)
- 金 200円 堀内 徹(学化7)

50周年記念事業募金申込

- 1 高知支会
 - 5,000円 窪田 盛(蚕7)
 - 3,000円 安岡美登(糸28)
 - 2,000円 柄沢昌一(紡28)
 - 1,500円 児玉文雄(学化6)
 - 1,000円 都築南海男(糸36) 田中亮(蚕17) 湯原清(学糸3) 金田久(学紡5)
- 2 香川支会
 - 10,000円 緒方善之助(蚕7)
- 3 愛媛支会
 - 5,000円 寺井子藏(紡12)
 - 4,000円 高田正氣(糸25)
 - 1,000円 三好弥市(糸8)
- 4 北九州支会
 - 5,000円 荒牧伊勢美(蚕5) 河野芳春(糸18) 宮崎連(糸17) 甲斐牧(糸2) 甲斐肇(糸2)
 - 3,500円 近藤昌孝(蚕28) 坂口静次(糸

- 28)
- 3,000円 結城鎮男(蚕12) 河合式太郎(糸23)
- 2,000円 高橋満(糸17)
- 1,500円 熊谷省次郎(糸38)
- 1,000円 早田充利(紡17) 金子寿夫(化8) 手島孝一(糸17) 栗師寺宏吉(糸20) 坪根克彦(糸20) 浦生卓輝(学蚕5)
- 5 熊本支会
 - 5,000円 小松茂男(蚕22)
 - 4,000円 高尾三代治(糸27)
 - 1,000円 関弥三(学糸4) 小川保治(蚕別4)
- 6 宮崎支会
 - 3,000円 山口亮祐(糸27)
- 7 鹿児島支会
 - 2,000円 浜武八男(蚕32)
 - 1,000円 守屋一郎(蚕22)
- 8 北海道支会
 - 3,500円 田中光雄(蚕29)
 - 1,000円 阿部道夫(糸29)
- 9 北奥支会
 - 3,000円 野里秀直(蚕17)
 - 2,200円 高橋重一郎(糸25)
 - 1,500円 井出昭三(蚕36)
- 10 山形支会
 - 5,000円 中尾小太郎(蚕4)
- 11 福島支会
 - 5,000円 六川忠一郎(蚕18)
 - 2,000円 土島喜代志(紡20) 富田弘衛(蚕36)
 - 1,000円 菅野昭光(学蚕6) 松尾昭光(紡27) 三谷敏夫(蚕専)
- 12 茨城支会
 - 1,000円 金井節博(学蚕3)
 - 500円 近藤明子(糸別17)
- 13 埼玉支会
 - 4,500円 戸田峻三(糸22)
 - 3,500円 菅野正文(糸28)
 - 3,000円 森力男(糸27)
 - 2,500円 平林直(紡26)
 - 2,000円 小林伴治(糸36) 堀内博一(紡28) 浅井保平(紡29) 新井露子(教7) 山浦忠(蚕23)
 - 1,500円 上原光雄(学紡1)
 - 1,000円 大久保実(学紡2)
- 14 栃木支会
 - 1,000円 吉池昭三(紡専) 和田実(学糸5)
- 15 千葉支会
 - 5,000円 清水達太郎(蚕1) 永井勝末(蚕17)

- 2,000円 保川房男(化3) 掛川栄一(蚕37)
- 1,500円 青柳寛(蚕35)
- 16 東京支会
- 3,000円 岩岡未彦(旧職員)
- 17 神奈川支会
- 3,000円 大井忠幸(紡24) 小山武(学紡4)
- 2,500円 井上忠雄(糸34)
- 1,000円 金子行徳(糸34) 乾康利(学化6) 石井一郎(学糸5)
- 18 越佐支会
- 5,000円 遠藤保太郎(旧職)
- 4,500円 小出権五郎(蚕22)
- 3,000円 柳瀬順作(糸34) 伊藤敬四郎(蚕32)
- 1,500円 花村治郎(蚕38)
- 1,000円 室賀定雄(蚕別2)
- 19 石川支会
- 3,500円 石原石司(蚕8)
- 20 富山支会
- 4,000円 彼末武猪(糸13)
- 3,500円 桐本他喜雄(紡9)
- 3,000円 山下昂(紡8) 丸山力蔵(紡11) 鐘塚好作(蚕22)
- 2,500円 馬場博史(紡23) 柿原修(蚕31) 大塚五郎(紡22) 矢崎勝(紡16) 赤羽安雄(紡24) 見田秀夫(蚕30) 川村吉太郎(蚕9) 吉田正信(化2) 向後正義(糸29) 柳沢六平(紡16) 長谷川敏文(蚕25) 森田孝之(蚕32) 原秀一(糸29) 井上晴普(紡19) 松尾介石(化3) 栗本正知(化3) 一之瀬徳治(紡21)
- 2,000円 笠原一郎(紡28) 寺西儀雄(糸37) 大西三郎(蚕27) 根建嵩熙(農3) 見田利夫(化6) 杉木和夫(紡27) 馬場慎(化7) 中曾根和夫(化8) 越川治文(紡28)
- 1,500円 小田中寿雄(化9) 清水敬

- 四郎(学化1) 長岡孝(化9)
- 1,000円 市川行洋(学紡6) 白石重昭(学紡6) 大谷文雄(学紡2) 高島忠(学紡5) 久保正人(学化5) 藤田雄己(学紡6) 中村正敏(学紡7)
- 500円 数井とめの(教6)
- 21 北佐久支会
- 5,000円 池田善三(蚕15)
- 4,000円 遠山正人(蚕20)
- 3,000円 小林輝夫(蚕21)
- 500円 相場実志男(糸19)
- 22 上小支会
- 30,000円 島田林助(糸20)
- 10,000円 猪坂直一(蚕6)
- 5,000円 佐藤利一(旧職) 佐藤春太郎(旧職) 宮下文四郎(糸20) 桜井弘吉(蚕15) 細川三郎(糸2)
- 3,000円 山浦昌雄(旧職) 伝田静夫(蚕21)
- 2,000円 笠原義昭(紡27) 小林清九(旧職) 芦田和(蚕36) 瀬在敏二(紡27)
- 1,500円 棚沢悌三(糸38) 玉井和更(学糸1)
- 1,000円 高橋邦夫(学糸6) 宮坂武雄(学糸5) 増田守光(学蚕3) 町田幹芳(学蚕5) 宮下敏雄(学糸5)
- 500円 堀内あい子(旧教) 赤岡豊一(蚕別4) 堀内敏子(旧教)
- 23 更埴支会
- 2,000円 宮本千秋(紡21) 上原邦夫(紡27)
- 1,000円 秋山俊之(農5) 小林茂樹(学蚕7)

- 24 北信支会
- 5,000円 岸 勝弥(蚕3) 高木三治(糸3) 土屋茂一郎(糸9) 柳沢忠治(糸11) 永井俊郎(糸16) 湯浅文雄(糸17) 坂口正信(蚕18) 矢島隆之助(糸17) 田尻恒治(糸16) 永井真吉(蚕18)
- 4,000円 鷹野貞雄(蚕20) 岡田量雄(蚕25)
- 3,500円 長谷川政雄(蚕26)
- 3,000円 宮島至(蚕23) 中島満展(紡20) 非出喜四男(紡21) 綿田英敏(糸32) 浜村一彦(蚕19) 牧野嘉雄(蚕31) 木内 亮(糸31)
- 2,500円 伊藤博夫(化4) 山越清美(化4) 松本光夫(蚕34) 清水好(農1)
- 2,000円 竹内与一(農3) 齋場袈裟雄(農2) 北村貴幸(農4) 宮城時久(蚕23) 木藤半平(化4) 丸山勲(糸20) 白井隆太郎(農3) 佐藤和夫(化6) 佐藤久夫(紡29) 久保山保雄(蚕36) 清水智英(糸34) 清水伝二(農2) 中村文雄(蚕35) 清水利男(糸37)
- 1,500円 池田京二(化9) 柄沢博美(農3) 依田範男(農5) 中沢孝夫(農5) 滝沢七郎(糸38) 榎原卓也(糸別1)
- 1,000円 飯島壯資(糸4) 近藤久人(蚕別6) 関口 要(学糸3) 飯島昇(蚕別4) 宮沢澄雄(学糸7) 武舎伊三夫(蚕別4) 深井靖男(学蚕2) 飯島南海夫(学化2)
- 小 計 5 4 0, 2 0 0 円
- 累 計 4, 4 8 4, 1 5 0 円

編 集 後 記

遠山にはまだ雪が見えるが信州路も水温む三月となりました。母校学園は卒業式、入試、学会と一連の行事で忙しい時期です。127名の新卒学生が好調な就職で晴れ晴れと社会に門出致します。何卒宜敷お願いします。

若きインテリゲンチヤに幸あれと饒する。

編集理事	田 口 亮 平	白 井 美 明
編集部長	矢 彦 沢 清 允	降 旗 剛 寛
	滝 沢 達 夫	小 笠 原 真 白
		篠 原 昭 要

特許・実用新案 出願・審判・訴訟代理
意匠・商標

浜 特 許 事 務 所

弁 理 士 浜 香 三

事務所 東京都千代田区麴町三丁目一番地
大野晋特許事務所内
電話(80)1444番

自 宅 むさしの市緑町 公園住宅7の302

新 刊 書 籍 ・ 雑 誌

上 田 市 海 野 町

島 田 書 籍 株 式 会 社

島 田 林 助 (糸20回卒)

電 話 (上田) 2 6 1 番